

シリーズ「放課後子ども教室推進事業」 初中教育ニュース（初等中等教育局メールマガジン掲載）

【第45回】

「作見地区放課後子ども教室」

石川県加賀市立作見小学校長 荒谷 実

「作見地区放課後子ども教室」は、今年度で4年目になります。放課後の子どもたちの居場所づくりとふれ合いを目的として、小学校のすぐ近くにある作見地区会館（公共の建物）において、毎週水曜日の午後3時から4時に開催されています。

運営については、運営委員会が組織され、この運営委員会のもと、指導に当たってくださるのは「町の先生」といわれる、子どもたちにとっては、おじいちゃん、おばあちゃんの年代のボランティアの方々です。

22年度の参加児童は、学童クラブの児童の参加も含め53名で、活動内容については、日本の伝統文化を子どもたちに伝え、継承して欲しいという思いから、「茶道」「折紙」「五目並べ・将棋」の3つの活動を実施し、子どもたちはどれかに所属し、1年間を通じて町の先生から学ぶしくみになっています。この他にも、季節に応じて、5月にホタル祭り用の行灯作り、7月に七夕づくり、1月に新年会とかるたなど全員で取り組む活動もあります。

私も時々顔を出すのですが、ここに通っている子どもたちは、水曜日を楽しみに待っています。どの教室の子どもたちの顔にも、学校とは違った雰囲気の中での楽しさや真剣な面持ちの子どもたちの一面をみることができます。

この放課後子ども教室において、日本の伝統文化や昔の遊びを体験することにより、また、地域のおじいちゃん、おばあちゃんに教えてもらうことにより、心の豊かさと温かさ、ふれあいを感じ取ってくれるものと思っています。そして、群れて遊ぶ機会が少なくなった今のこの時代において、とても貴重な、有意義な機会を提供させていただいております。

（初中教育ニュース（初等中等教育局メールマガジン）第150号に掲載）